

赤煉瓦倶楽部舞鶴							
会報133号 令和8年(2026年) 1月1日							
「赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ http://www.redbrick.jp/							

赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報	
発行人/会長 吉岡博之	
編集人/小野 章	
〒625-0062 舞鶴市森973番地の1	
FAX/0773-63-9764	
E-mail:redbrick30539463@gmail.com	

目次

1. 赤煉瓦倶楽部舞鶴解散にあたって	4. 表彰状等の写真一覧
2. 赤煉瓦倶楽部舞鶴概要(サマージャズ経過含む)	5. 舞鶴の水道を巡る(第6回)
3. 赤煉瓦倶楽部舞鶴の表彰履歴	6. 図書のご紹介

新年明けましておめでとうございます。

1. 赤煉瓦倶楽部舞鶴解散にあたって	吉岡博之(会長)
--------------------	----------

赤煉瓦倶楽部舞鶴の解散にあたり、これまで皆様から頂いたご支援とご協力に心より感謝を申し上げます。平成3年(1991)6月に150人の仲間とともに発足して以来35年にわたり、ふるさと舞鶴に残る赤煉瓦建造物の保存と活用への取り組みを実践し、「赤煉瓦を活かしたまちづくり」を目指して活動を続けてきました。神崎ホフマン窯の保存運動や20年におよぶ赤煉瓦ジャズ祭の開催、赤煉瓦ネットワーク等との交流などを通じて、多くの方々と出会い、市民の皆さんと共に歩んできたことは私たちにとってかけがえのない財産となりました。

現在、市行政では「赤れんが周辺まちづくり事業」を推進しており、赤れんがパークを運営する株式会社ウッディーハウス、一般社団法人舞鶴観光協会のご努力により、赤れんがパーク一帯は「舞鶴の観光拠点」として大きな賑わいをみせるまでに成長しています。また昨年4月には、行政内に赤煉瓦建造物をはじめとする明治以降の各種建造物を貴重な遺産として未

来へ伝える「近代化遺産保存センター」が設置されて、「近代化遺産保存計画」の策定が進められており、将来の方向も明確になりました。

そのような情勢をうけ、当倶楽部は令和3年3月末でNPO法人としての活動を終了して任意団体として新たな一歩を踏み出しておりましたが、今般、所期の目的を達成したものと判断して解散を決断したものです。これまでの活動を振り返り、会員各位の温かいご支援があったからこそ、数々の栄誉ある表彰状や賞牌を頂くことができたものと深く感謝しております。

赤煉瓦倶楽部舞鶴の活動は終わりますが、今後も赤煉瓦の歴史と文化を未来へつなぐ取り組みが続いていくことを願っております。

最後に、これまでのご支援に改めて感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

赤煉瓦倶楽部解散に当たっての懇親会について

(詳しくは、別添のご案内をご覧ください。)

日時 令和8年2月21日(土) 午後6時～
場所 ホテルベルマーレ 2階 瑠璃の間
会費 会費は不要(当倶楽部で負担します)

2. 「赤煉瓦倶楽部舞鶴」(旧特定非営利活動(NPO)法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴) (概要)

団 体 名	「赤煉瓦倶楽部舞鶴」(旧特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴)
代表者名	会 長 吉 岡 博 之
会 員 数	個人会員42名、(特別会員8名) 【令和7年4月1日現在】
U R L	http://www.redbrick.jp/
e-mail	redbrick30539463@gmail.com
会 発 足 日	平成3年6月1日 (発足時会員約150名)
法人認証日	平成12(2000)年8月9日 京都府指令2府第1号の14
法人登記日	平成12(2000)年8月21日 京都地方法務局法人成立
法人解散日	令和3年(2021)年3月31日 京都地方法務局解散登記申請4月1日、結了8月2日。
旧法人の目的	この法人は、ふるさと舞鶴に残る明治・大正・昭和初期の赤煉瓦建造物を後世に引継ぎ、赤煉瓦を活かしたまちづくりに関する事業を行うとともに、赤煉瓦に縁のある都市のネットワーク化を図り、赤煉瓦を活かしたまちづくりを支援する活動を行い、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。
旧法人の事業内容	①赤煉瓦建物などの保存と活用に関する調査及び研究事業 ②赤煉瓦に関するイベントの企画開催事業(赤煉瓦ジャズ祭主催、赤れんがフェスタ共催等) ③赤煉瓦に関する講演会、講座の企画運営事業 ④赤煉瓦に関する情報発信事業(ホームページ、季刊誌年4回、冊子、パンフ等) ⑤赤煉瓦に関する政策提言事業 ⑥赤煉瓦保存基金事業(募金活動) ⑦赤煉瓦建物の管理運営受託事業 ⑧赤煉瓦を生かしたまちづくり活動に対する支援事業(赤煉瓦ネットワーク運営ほか) ⑨その他法人の目的を達成するために必要な事業
赤煉瓦倶楽部舞鶴の発足及び主な活動経緯	<p>昭和63年8月 舞鶴市職員約80名が自主参加し「舞鶴市まちづくり推進調査研究会」発足。(1988)</p> <p>平成元年3月 まちづくり研究会の「都市の個性化分科会」が横浜市視察。「横浜まちづくり研究会」と交流。横浜新港埠頭の「赤煉瓦パーク構想」を知る。 舞鶴市の赤煉瓦倉庫群の調査とマップ作成。</p> <p>12月 市所有倉庫(現市政記念館)のライトアップ開始。以降、赤煉瓦倉庫群のライトアップを所有者に依頼し実現。現在8棟ライトアップ実施。</p> <p>平成2年4月 「まいづる建築探偵団」発足。市内の赤煉瓦建物の調査・研究。</p> <p>(1990) 7月 舞鶴市の神崎でホフマン式輪環窯を発見。全国5例目の発見で、現在は4例現存。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">     </div> <p>ホフマン窯「発見」 ホフマン窯全景 ホフマン窯内部 赤煉瓦シンポジウム</p> <p>11月 「第1回赤煉瓦シンポジウム in 舞鶴」開催。赤煉瓦マップ「舞鶴赤煉瓦浪漫」を記念発行。市民組織設立要望が寄せられる。</p> <p>平成3年6月 市民組織「赤煉瓦倶楽部・舞鶴」発足。当初会員150名。</p> <p>(1991) 8月 「赤煉瓦サマージャズ in 舞鶴'91」赤煉瓦倉庫群野外特設ステージで開催。本サマージャズは現在まで20回開催。冊子「舞鶴の赤煉瓦」記念発行。</p>



赤煉瓦倶楽部舞鶴の発足



ジャズ開場を待つ人々



サマージャズ会場



ステージより望む

平成 4 年 10 月 「第 2 回赤煉瓦ネットワーク総会」舞鶴大会開催。毎年各地で開催。

平成 5 年 11 月 舞鶴市立「赤れんが博物館」オープン。感謝状贈られる。

平成 6 年 3 月 丹後観光キャンペーン推進協議会より「自然豊かな丹後の観光地づくり応援団賞」受賞。

5 月 産業考古学会より「産業遺産保存功労者（団体）表彰」受賞。

10 月 「市政記念館」オープン。



赤れんが博物館開館



赤れんが博物館



舞鶴市政記念館

平成 11 年 9 月 神崎ホフマン窯の所有者に国登録有形文化財への申請を依頼した結果、
(1999) 文化財保護審議会において登録が答申される。

10 月 第 7 回「赤れんがフェスタ」において、「赤煉瓦保存基金」募金活動開始。

12 月 舞鶴市より「舞鶴市まちづくりデザイン賞（活動部門）」受賞。

平成 12 年 8 月 「特定非営利活動（NPO）法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」京都府より認証。
赤煉瓦ネットワーク舞鶴大会を開催

平成 13 年 5 月 競売中の神崎ホフマン窯保存に向けて全国からの署名を添え金融機関に保存を要望。

平成 14 年 6 月 まちづくり功労者（団体）国土交通大臣表彰受賞。

(2002) 10 月 「赤れんがフェスタ in 舞鶴」で「赤れんが音楽祭」の企画運営を受託。

平成 15 年 3 月 神崎ホフマン窯の保存を図るため紹介冊子「神崎ホフマン窯」を発行。

5 月 舞鶴市制施行 60 周年記念功績者表彰 受賞。

(2003) 10 月 平成 15 年度都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」国土交通大臣表彰受賞。



2003 年 10 月赤れんがフェスタのクラフトフェアと赤れんが音楽祭

12 月 「舞鶴赤れんが賞」創設、赤煉瓦建物を表彰。

舞鶴旧鎮守府水道施設が国の重要文化財に指定。

平成 16 年 6 月 平成 16 年度京都市町村自治功労者表彰受賞。
 平成 18 年 4 月 舞鶴市政記念館の指定管理者として管理運営を舞鶴市より受託。
 (2006) 11 月 毎日新聞主催の「ヘリテージング 100 選」に当法人が推薦した『舞鶴
 赤煉瓦建造物群』が選定。(京都市内から琵琶湖疎水施設群が選定のみ)
 平成 19 年 4 月 まいづる智恵蔵オープン。指定管理者として管理運営を舞鶴市より受託。



まいづる智恵蔵オープンの様子



智恵蔵前の飲食コーナー

7 月 海軍レシピ「海軍割烹術参考書」に現代訳版を舞鶴市と発行。
 (2007) 11 月 経済産業省よりホフマン窯、赤煉瓦倉庫群等が近代化産業遺産に認定。
 平成 20 年 2 月 舞鶴市赤れんが倉庫群保存・活用検討委員会報告書、市長に提出。
 (2008) 6 月 舞鶴市北吸地区赤煉瓦倉庫群 7 棟、国の重要文化財指定。
 平成 21 年 5 月 舞鶴市より赤煉瓦倉庫群活用実証実験委託事業受託。
 (2009) 11 月 舞鶴赤れんがパーク整備着手。
 平成 22 年 6 月 第 3 回ティファニー財団賞伝統文化振興賞受賞。
 平成 23 年 10 月 自治体学会 2011 年度第 1 回「自治体学会田村明まちづくり賞」受賞。
 平成 24 (2012) 年 5 月「舞鶴赤れんがパーク」グランドオープン。指定管理者終了。



赤れんがパークを北から見る



5 号棟内での催しの様子



近代化遺産視察の旅(令和 4 年)

平成 25 年 5 月 舞鶴市制施行 70 周年記念功績者表彰 受賞。
 平成 26 (2014) 年 9 月 京都創造者大賞(創造者賞くもてなし・環境部門) 受賞。
 平成 27 年 11 月 赤煉瓦ネットワーク舞鶴大会を開催。
 平成 28 (2016) 年 4 月 文化庁「日本遺産」認定。旧軍港 4 市のストーリー。
 12 月「日本イコモス賞 2016」受賞。
 令和 3 (2021) 年 3 月 31 日 NPO 法人解散(令和 3 年 8 月 2 日京都地方法務局解散登記完了)
 令和 3 年 4 月 1 日 任意団体「赤煉瓦倶楽部舞鶴」発足
 10 月 赤煉瓦倶楽部舞鶴発足 30 周年記念展開催
 令和 4 年 5 月 京都市の琵琶湖疎水施設等視察旅行実施、9~12 月舞鶴線鉄道施設調査(3 回)
 令和 5 年 10 月 舞鶴線を支えた赤煉瓦を巡るバスツアー実施
 令和 7 年 3 月「官設鉄道舞鶴線開通 120 周年記念講演会」実施
 ※ 令和 7 年度まで計 13 回に亘り「近代化遺産視察の旅」を実施し見識を深めた。

舞鶴赤煉瓦サマージャズの活動経過

回	開催日	出演グループ及び主な出演者（※1 は一般公募優秀賞、※2 は一般公募）
1	1991 8/3	山下洋輔ニュートリオ
2	1992 8/15 8/16	山下洋輔ニュートリオ+菊地成孔 ジョージ川口スーパーオールスターズ、松本英彦、日野皓正
3	1993 8/21 8/22	中川英二郎&FUNK' 55、阿川泰子&グループ 山下洋輔ニュートリオ+林栄一+菊地成孔、雪村いづみ&ウインドブレイカーズ
4	1994 8/20 8/21	峰厚介クインテット+日野皓正 今田勝トリオ、北村英治クインテット+金子晴美
5	1995 7/29 7/30	中川喜弘とデキシーデックス、谷啓とスーパーマーケットオーケストラ 青木弘武トリオ+大野俊三+キャロル山崎、青木弘武トリオ+マリーン+大友義雄
6	1996 8/3 8/4	松島啓之クインテット、菊地雅章カルテット+松島啓之 向井滋春Jクインテット、渡辺香津美グループ
7	1997 7/19 7/20	鈴木重子 with VIVACE、日野元彦セクステット アンリ菅野 with 山本剛トリオ、ケニー・パレル・カルテット
8	1998 8/8 8/9	伊藤君子 with ヒューバート・ロウズ&トリオウエスト' 98 横山達治スペシャルプロジェクトほか、山下洋輔スペシャルグループ
9	1999 8/7 8/8	続木徹トリオ+3 ヴォーカル、ALTO なかよしこよし、多田譲司、山田穰ほか 上海リルとその楽団、ジャッキー・マククリーンクインテット
10	2000 8/4 ~8/6	8/4 マサ住出、海上自衛隊舞鶴音楽隊ほか 8/5 ケイコ・リーカルテット、北村英治クインテット 8/6 テディ・エドワーズ&トリオ、山下洋輔グループ+原朋直ほか
11	2001 8/11 8/12	ジュスカ・グランペール※1、ザ・フォー・フレッシュメン 旧橋壮カルテット※1、小林桂 with スーパークインテット
12	2002 8/3 8/4	ギャオ※1、ケイ赤城トリオ、小林陽一&グッドフェローズ with 仲宗根かほる ハニー・ビー※1、北野タダオ&アロージャズオーケストラ with 越智順子
13	2003 8/2 8/3	京都スーパージャズビッグバンド※2、横山達治&ル・パシオン feat 麻生ミツキータ タケムラ&オールスターズ※2、谷口英治&鈴木直樹 S with マリア・エヴァ
14	2004 8/7 8/8	ユキ ブラジル プロジェクト※2、椎名豊スペシャルグループ 石田ヒロキ&フレンズ※2、松永貴志トリオ
15	2005 8/6 8/7	ニューサウンズオーケストラ※2、チャリートスペシャルグループ ソファ※2、矢野沙織カルテット
16	2006 8/5 8/6	RINKO&東京キッド※2、ピンセント・ヘリングカルテット ノーチェ&モンテ※2、エディ・ヒギンスクインテット
17	2007 8/19	リッチー・コール&マイク・プライスジャズクインテット、市原ひかりグループ、滝川雅弘カルテット、畑ひろしカルテット、紺野葉子、しげのようこ、彩木香里ほか
18	2008 8/3	松島啓之クインテット、渡辺正典&キングクレオ with 正木まどか、フェローン・アクラフトリオ スペシャルゲスト山下洋輔、八木隆幸トリオ with キャロル山崎ほか
19	2009 8/2	TOMMY クインテット、有馬靖彦&デキシージャイズ、谷口英治スイングクインテットゲスト沢村まみ、The Pasternack Swing Trio、八木隆幸トリオほか
20	2010 8/7 8/8	沖至クインテット、花岡詠二スインググループ&YOKO アリソン・アダムス・タッカーカルテット&太田剣、山下洋輔 Solo&More

3. 赤煉瓦倶楽部・舞鶴 & NPO 法人赤煉瓦倶楽部舞鶴 関係 表彰履歴

1994(h6).3.1	「自然豊かな丹後の観光づくり応援団賞」	丹後観光キャンペーン
1994(h6).5.28	「産業遺産保存功労者」団体表彰	産業考古学会 上智大学中央図書館総合研究棟にて
1999(h11).12.3	「99 舞鶴市まちづくりデザイン賞」活動部門表彰(写真1)	舞鶴市
2001(h13).5.19	第16回舞鶴ユネスコ協会賞「教育・文化・体育功労者表彰	舞鶴ユネスコ協会
2002(h14).6.24	第20回「まちづくり月間」まちづくり功労者国土交通大臣表彰(写真2)	国土交通省 東京 イイノホールにて
2003(h15).5.27	舞鶴市制施行60周年記念「功績者表彰」(写真3)	舞鶴市 舞鶴市総合文化会館にて
2003(h15).10.3	15年度都市景観大賞「美しいまちなみ賞」(写真4)	国土交通省、舞鶴市と同時表彰
2004(h16).6.18	平成16年度「京都市市町村自治功労者表彰」	京都府 京都府公館にて
2010(h22).6.29	ティファニー財団賞「伝統文化振興賞」(写真5)	ティファニー財団 東京南青山梅窓院にて
2011(h23).10.9	第1回「自治体学会 田村明まちづくり賞」(写真6)	自治体学会 法政大学にて
2013(h25).5.18	舞鶴市制施行70周年記念「功績者表彰」	舞鶴市 舞鶴市総合文化会館にて
2014(h26).9.11	京都創造者大賞2014・京都創造者賞くもてなし・環境部門>受賞(写真7)	京都創造者大賞顕彰委員会 ／京都府／京都市／京都商工会議所 龍谷大響都ホール校友会館にて
2016(h28).12.10	日本イコモス賞(写真8)	日本イコモス国内委員会 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所にて 受賞者/NPO 法人赤煉瓦倶楽部舞鶴・舞鶴市



写真① 平成11年12月3日



写真④ 平成15年10月3日



写真② 平成14年6月24日



写真⑤ 平成22年6月29日



写真③ 平成15年5月27日



写真⑦ 平成26年9月11日



写真⑥ 平成23年10月9日



写真⑧ 平成28年12月10日

水道計画を巡る紆余曲折、あるいは整備計画の見直しで、廃止される施設や忘れられてしまう施設が出てきます。下福井の海軍山に作られた配水池や北吸三宝寺配水池は、築造されたまま使われることなく廃止され、山の中に眠っています。また桑飼に作られた岡田水源（取水施設、ポンプ場）は塩水遡上に悩まされ、ついに昭和24年には取水不能に陥り、休止を余儀なくされました。現在ではさらに上流の有路でもしばしば潮水が来ており、さらなる上流への水源移転が検討されています。海面上昇など地球環境の変化の影響を受けているのです。

結果的に現在でも、旧簡易水道系統のいくつかの小規模な単独水源を除いて、主要な水源としては昭和初期から続く有路・二箇の由良川水源系統と、明

治期から続く桂・岸谷の与保呂水源系統の二系統が使われています。そのうち現在も使われている施設が桂と岸谷の取水堰堤です。これらは建設当時の技術水準や建設に携わった人々の思いまでも、実際に見て確かめることができる、貴重な証拠資料でもあります。ことに与保呂水源地の諸施設は、国の重要文化財でありながら草木に覆われて痛んでいく姿、土砂に埋もれていく現状を見るにつけ、なんとかして復旧し保存できないものだろうかと思います。いま社会経済の縮小局面ではインフラの維持が大きな課題ですが、歴史的な遺構の保存についても、受け継いできた水道を未来につなぐために、知恵をしなければなりません。（終わり）

（草木に埋もれていく岸谷上流取水堰堤：M38 築造）



（今も折々に展張する由良川防潮幕：令和6年撮影）



6. 図書のご紹介：「戦争ミュージアム」 梯 久美子 著 岩波新書



戦争の時代を生きた人間を描くノンフィクション作家が国内各地に立地する戦争を記録する14施設を訪ねて紹介した本です。舞鶴引揚記念館も入っていますが、加えて戦没画学生慰霊美術館、対馬丸記念館、八重山平和記念館、満蒙開拓平和記念館などは、戦争そのものよりも、その犠牲となった一般国民たちの苦難を扱っています。本書は市図書館にあります。本体920円

編集後記

赤煉瓦倶楽部舞鶴会報は本号が最終号となります。長く読んでいただき有難うございました。なお、1号から115号までは、合本にして東西市立図書館に館内閲覧で配置しており、その後の号も合本にして配置する予定です。個人的には、皆様のご参加を得て計13回実施した近代化遺産視察の旅がよい思い出になっております。今後も機会があれば、同様な視察をさせていただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。